

## 虹の松原とその周辺で見られる野鳥

蒲原 邦行

虹の松原とその周辺で見られる野鳥は、107種類確認されています。その内訳は水鳥が49種類（46%）、陸鳥が58種（54%）で若干陸鳥が高い比率です。

虹の松原は、クロマツを主体とした人工林で一部広葉樹やアカマツの侵入はあるものの、極めて単純な林相（森林の形態）で、純粋に松原に生息する野鳥は20～30種類と推測されます。リストにある水鳥は、全て唐津湾や松原川周辺及び松原上空を通過中に確認されたものです。

107種類の野鳥は観察できる時期により、以下のように分けることができます。

留鳥：本県に一年中生息する鳥。

夏鳥：夏、本県に渡来し、夏を過ごす鳥。

漂鳥：本県に一年中生息するが、県内を移動する鳥。

旅鳥：渡りの途中に本県に立ち寄る鳥。

冬鳥：冬、本県に渡来し、越冬する鳥。



森林性鳥類の代表的種類であるシジュウカラ（写真撮影：佐賀野鳥の会 栗山千速氏）

以前、初夏から夏の繁殖期を中心に調査をしたことがありますが、20数種類の野鳥を確認できました。優占種はカワラヒワ、ホオジロの2種で、他にシジュウカラの計3種のなわばりを確認できました。

これらの野鳥は、一年中松原に棲息して、そこで繁殖している、いわゆる留鳥と呼ばれる種類で、珍しくもなんともない種類ですが、虹の松原の保護を考える上では、非常に意味のある種類でもあります。それは、虹の松原で繁殖するということは、雛を育てるため沢山の虫の幼虫などを食べてくれるからです。ややもすると、珍しい野鳥がいるから、それを保護しようという話になりがちですが、在りきたりだからこそ保護する必要があると、私は考えています。

スギやヒノキ、カラマツなどの単純林は棲息する野鳥の数や種類が少ないですが、隣接地に適当に広葉樹林を配置してやることによって、野鳥の数や種類を増やすことができます。松原内にも、一部広葉樹林がありますが、野鳥の棲息環境から言うと、生物多様性を保護する意味からも、これらを残す必要があると考えます。松原には、シジウカラやコゲラなどの虫を常食としている野鳥の、巣を作る木の洞がほとんどありません。これを解消するために、巣箱を懸けることで補完できると思います。

※末尾に虹の松原及びその周辺で確認された野鳥のリストを添付します。

森林の形成にも、野鳥は深く関わっています。虹の松原には野鳥の種子散布によるものと思われる広葉樹があちこちに生えています。よく目にするのは、ハゼノキ、アカメガシワ、アオモジなどの落葉広葉樹やヤマモモ、クスノキ、などの常緑広葉樹です。ハゼノキはカラス類が主な散布主で、吐き出したペリットと糞から採取した種子を調べると、58%がハゼノキなどのウルシ属であったという報告があります。

アカメガシワはサメビタキ、メジロ、カラスなど、アオモジはヒヨドリ、メジロ、ヒタキ類など、ヤマモモやクスノキはムクドリやヒヨドリ、カラスなどが種を運んできます。実のなる樹木はその種子の多くを野鳥に運んでもらっています。野鳥による種子散布には、止まり木があることが重要で、木の実を食べた後、木などに止まって糞をしますが、糞といっしょに種子を排出します。その下の種子が芽吹いて林を形成することがあります。

私の自宅近くでは、止まり木の代わりとなる電柱や電線などの下に七種類の広葉樹が芽吹いているのを確認しています。

また、食べた種子のほとんどは基となる木から半径百メートル以内に散布されることも報告されていて、これは野鳥が食べた木の実を長く体内に貯留しておくとか体が重くなり、飛ぶのに支障をきたすためと推測されています。松原の近隣の庭には、実のなる木が多くあり、ここから松原に多くの種子が散布されていると思われます。



野鳥の中で種子散布の代表的担い手であるヒヨドリ（写真撮影：佐賀野鳥の会 栗山千速氏）

※詳しくは解説「野鳥と種子散布」をご参照ください。

## 虹の松原とその周辺の野鳥リスト

R4.11.01現在

No.	鳥名	季節	水・陸別	No.	鳥名	季節	水・陸別
1	アオアシシギ	冬鳥	水鳥	54	アマツバメ	夏鳥	陸鳥
2	アオサギ	留鳥	水鳥	55	イスカ	冬鳥	陸鳥
3	アカハシロ	冬鳥	水鳥	56	イソヒヨドリ	留鳥	陸鳥
4	アジサシ	夏鳥	水鳥	57	イワミセキレイ	夏鳥	陸鳥
5	アビ	冬鳥	水鳥	58	ウグイス	留鳥・漂鳥	陸鳥
6	アメリカヒドリ	冬鳥	水鳥	59	エナガ	留鳥・漂鳥	陸鳥
7	イカルチドリ	旅鳥	水鳥	60	オオジュリン	旅鳥	陸鳥
8	イソシギ	留鳥	水鳥	61	カササギ	留鳥	陸鳥
9	ウミウ	冬鳥	水鳥	62	カシラダカ	冬鳥	陸鳥
10	ウミネコ	冬鳥	水鳥	63	カワセミ	留鳥	陸鳥
11	オオハム	冬鳥	水鳥	64	カワラヒワ	留鳥	陸鳥
12	オオミズナギドリ	旅鳥	水鳥	65	キクイタダキ	冬鳥	陸鳥
13	オグロシギ	旅鳥	水鳥	66	キジバト	留鳥	陸鳥
14	オナガガモ	冬鳥	水鳥	67	クロジ	冬鳥	陸鳥
15	カイツブリ	留鳥	水鳥	68	コクマルガラス	冬鳥	陸鳥
16	カモメ	留鳥	水鳥	69	コゲラ	留鳥	陸鳥
17	カルガモ	冬鳥	水鳥	70	コサメビタキ	夏鳥	陸鳥
18	カンムリカイツブリ	冬鳥	水鳥	71	コシアカツバメ	夏鳥	陸鳥
19	キアシシギ	旅鳥	水鳥	72	コジュケイ	留鳥	陸鳥
20	キンクロハジロ	冬鳥	水鳥	73	サシバ	夏鳥	陸鳥
21	クサシギ	冬鳥	水鳥	74	サメビタキ	夏鳥	陸鳥
22	クロガモ	冬鳥	水鳥	75	シジュウカラ	留鳥	陸鳥
23	コアシサシ	夏鳥	水鳥	76	シマアカモズ	夏鳥	陸鳥
24	ゴイサギ	留鳥	水鳥	77	ジョウビタキ	冬鳥	陸鳥
25	コサギ	留鳥	水鳥	78	シロハラ	冬鳥	陸鳥
26	コシャクシギ	旅鳥	水鳥	79	スズメ	留鳥	陸鳥
27	コチドリ	夏鳥	水鳥	80	セッカ	夏鳥	陸鳥
28	シロチドリ	留鳥	水鳥	81	タヒバリ	冬鳥	陸鳥
29	スズガモ	冬鳥	水鳥	82	チョウゲンボウ	冬鳥	陸鳥
30	セグロカモメ	冬鳥	水鳥	83	ツグミ	冬鳥	陸鳥
31	ソリハシシギ	旅鳥	水鳥	84	ツバメ	夏鳥	陸鳥
32	ダイサギ	留鳥	水鳥	85	ツリスガラ	冬鳥	陸鳥
33	ダイゼン	旅鳥	水鳥	86	ドバト	留鳥	陸鳥
34	タシギ	冬鳥	水鳥	87	トビ	留鳥	陸鳥
35	チュウサギ	夏鳥	水鳥	88	トラツグミ	冬鳥	陸鳥
36	チュウシャクシギ	旅鳥	水鳥	89	ハイタカ	冬鳥	陸鳥
37	トウネン	旅鳥	水鳥	90	ハクセキレイ	留鳥	陸鳥
38	ハジロカイツブリ	冬鳥	水鳥	91	ハシブトガラス	留鳥	陸鳥
39	ハマシギ	旅鳥	水鳥	92	ハシボソガラス	留鳥	陸鳥
40	ヒシクイ	冬鳥	水鳥	93	ヒガラ	冬鳥	陸鳥
41	ヒドリガモ	冬鳥	水鳥	94	ヒバリ	夏鳥	陸鳥
42	ピロードキンクロ	冬鳥	水鳥	95	ヒヨドリ	留鳥・漂鳥	陸鳥
43	ハウロクシギ	旅鳥	水鳥	96	ヒレンジャク	冬鳥	陸鳥
44	ホシハジロ	冬鳥	水鳥	97	ビンズイ	冬鳥	陸鳥
45	マガモ	冬鳥	水鳥	98	ホオアカ	冬鳥	陸鳥
46	ミコアイサ	冬鳥	水鳥	99	ホオジロ	留鳥	陸鳥
47	ヤマシギ	旅鳥	水鳥	100	マヒワ	冬鳥	陸鳥
48	ユリカモメ	冬鳥	水鳥	101	ミヤマガラス	冬鳥	陸鳥
49	ヨシガモ	冬鳥	水鳥	102	ミヤマホオジロ	冬鳥	陸鳥
				103	ムクドリ	留鳥・漂鳥	陸鳥
50	アオジ	夏鳥	陸鳥	104	ムネアカタヒバリ	冬鳥	陸鳥
51	アオバスク	夏鳥	陸鳥	105	メジロ	留鳥・漂鳥	陸鳥
52	アカモズ	旅鳥	陸鳥	106	モズ	留鳥・漂鳥	陸鳥
53	アトリ	冬鳥	陸鳥	107	ヤマガラ	留鳥	陸鳥

## 参考文献

1 佐賀の野鳥：1997年3月 発行佐賀県

2 野鳥生息状況調査報告書(昭和58,59,60,平成6,7調査)：平成9年3月 発行佐賀県